

国立病院機構熊本医療センター

No.201



# くまびょう NEWS

NHO KUMAMOTO MEDICAL CENTER KUMABYO NEWS

発行所  
国立病院機構熊本医療センター  
〒860-0008  
熊本市中央区二の丸1番5号  
TEL (096) 353-6501(代)  
FAX (096) 325-2519

## 平成25年度 第2回(通算36回) 開放型病院連絡会が開催されました



平成25年度第2回(通算36回)開放型病院連絡会が、2月15日(土曜)午後6時30分より、当院2階地域医療研修センターで開催されました。

開会にあたり、河野院長より開放型病院としての経緯及び現状報告をされ、日頃の病病・病診連携へのご支援に対する感謝を申し上げます。

続いて、開放型病院協議会委員長で、熊本市医師会会長であられる福島敬祐先生にご挨拶を頂き、全体会議に移りました。

全体会議では、水上智之小児科医長より「小児の免疫異常症」、森永信吾小児科医長からは「当科で行っている小児造血細胞移植」について症例提示が行われました。この後、清川哲志 統括診療部長(地域医療連携室長)より地域医療連携室からのお知らせを行い、最後に熊本市歯科医師会会長の宮本格尚先生からご挨拶を頂き、全体会議を終了いたしました。

続いて、厚生労働省医政局総務課保健医療技術調整官の山本英紀先生による特別講演「我が国の医療提供体制について」を予定しておりましたが、関東地方の大雪のため山本先生が出席できなくなり、急遽、片渕茂副院長による「医療政策からみた平成26年度診療報酬改定について」の特別講演が行われ、社会保障制度改革をめぐる背景や平成26年度診療報酬改定の重点課題と対応について分かりやすく説明されました。また、歯科の診療報酬改定については、中島健歯科口腔外科部長から説明がありました。

開放型病院登録医の先生方をはじめ、スタッフの方々の多数のご参加を頂き、大変有意義な連絡会となりました。

今後益々、病病・病診連携が充実致しますよう登録医の先生方のご指導・ご鞭撻を宜しく申し上げます。  
(管理課長 中村 敦)

### 基本理念

最新の知識・医療技術と礼節をもって、  
良質で安全な医療を目指します。

### 運営方針

1. 良質で安全な医療の提供
2. 政策医療の推進
3. 医療連携と救急医療の推進
4. 教育・研修・臨床研究の推進
5. 国際医療協力の推進
6. 健全経営

### 患者様の権利

1. 良質かつ適切な医療を公平にうける権利があります
2. ご自身の医療について理解しやすい言葉と方法で十分な説明と情報を受ける権利があります
3. 病院から説明と情報を得た上で、自らの意志で治療を受け、あるいは選択し、拒否する権利があります
4. 自分の診療記録の開示を求める権利があります
5. セカンド・オピニオンを求める権利があります
6. 個人としての人格の尊重とプライバシーの保護を受ける権利があります



## 大坂総合歯科

院長 大坂 栄樹

私たち大坂総合歯科は、山鹿市熊入町に平成21年1月11日に開院し3年が経ちました。当院の掲げる「総合歯科」とは、口腔内全体のバランスを考えることが何よりも重要であり、安易な対処法ではなく、各専門領域のプロフェッショナルが集結したチーム医療による全体治療で、しっかりとした解決を行っていく必要があるという考えに基づいています。その為大坂総合歯科には様々な専門性を持った歯科医師が在籍しています。口腔外科では毎週火曜日に熊本医療センターから河野先生に、矯正治療では福岡から、義歯担当医には福岡からお越し頂いています。また来院が困難な方には、迅速に往診を行い、機能の回復のお手伝いをさせて頂く、訪問歯科診療専門のチームがおり、地域に貢献させて頂きたいと考えています。

最近の歯科事情はとかく審美的な治療が注目されがちです。

私たちの考える歯科治療の本質は機能回復です。

歯科における「機能」とは、咀嚼・嚥下・発音の3つです。私たちはそれらの回復を常に心がけております。

また、当院では2つのことにこだわっています。一つ目は、当院ではユニバーサルプレコーションという概念に賛同し徹底した滅菌を行うため、患者様のお口の中に入るすべての器具（ハブラシ等もすべて）ガス滅菌機、高温・高圧滅菌機にて滅菌しております。今年1月に2名のスタッフが第二種滅菌技師の資格を取得しました。

二つ目は、補綴装置（詰め物・被せ物・入れ歯）へのこだわりです。患者様のお口の中に調整のない状態に入れたいという気持ちから、室内温度を23℃に設定、型とりの一つ一つの材料、精密な模型を作るということにこだわり、患者様に長い期間おいしく食事していただけることを目標にしています。そのために歯科医師・衛生士・技工士が連携しチーム一丸となって日々精進しております。



## 院内感染対策研修会開催報告

九州ブロックの院内感染対策研修会が1月22日から24日にかけて研修ホールで開催されました。各領域のエキスパートの先生方により、医療関連感染症、結核、小児科領域の感染症、多剤耐性感染症、抗菌薬の適正使用、グラム染色法、滅菌と消毒、ICNの役割など密度の濃い講義が3日間みっちり行われました。参加者は全国にまたがり、北は北海道、南は沖縄から国立病院機構の施設を中心に医師、看護師、行政担当者など総勢44名でした。



エキスパートの先生方による講義の様子



熱心に講義を受ける参加者

最終日の総合討論会では参加者の質問に講師コメンテーターが答えるという形式で行い、臨床現場からの素朴な疑問に対して講師の先生方より丁寧な説明をいただきました。今回の研修が各施設の感染対策に活かされることを期待したいと思います。本院からも多くの先生方に講師、座長を引き受けていただき大変お世話になりました。この場を借りて深謝いたします。

(感染制御室長 高木 一孝)



# チーム医療紹介

## クリティカルパスチーム



クリティカルパス検討会メンバー

創生期のクリティカルパス作成に関わった職員が少なくなり、クリティカルパスの基本や運用を知らない職員が増えていることから、クリティカルパスを担う者の若返りとクリティカルパスの基本をもう一度、全職員に広めることを目的に、平成25年9月よりクリティカルパス委員会を始めました。構成員は、副院長1名、副看護部長1名、医師10名、看護師長8名、副師長14名、部門長7名と計40名の大所帯で、毎月第1金曜日16:00より、副師長会に引き続き開催しています。クリティカルパスの基本を再確認するために、平成26年1月まで、毎回、クリティカルパスの基本のレクチャーを行いました。クリティカルパスのさらなる機能充実を図るため、2月からは、ワーキンググループ（WG）の活動を開始しました。WGは、新規パス・新規機能WG、バリエーション評価・適正使用WG、改訂WG、EBM・統計WG、マスター管理WGの5つです。従来、クリティカルパス担当者はサービス残業が多いと不評であったため、委員会の中でWG活動を行っています。委員会活動に加え、毎週水曜日午前8時からのクリティカルパス検討会、2ヶ月に1回のクリティカルパス研究会などと併せて、クリティカルパスのさらなる充実が期待されます。

(委員長 片渕 茂)

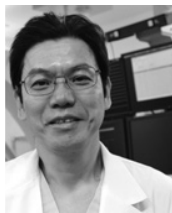
クリティカルパスワーキングチーム

ワーキングチーム	医師	看護部長	H25年度	
			副看護部長	コメディカル
新規パス・新規機能 ニーズ(使用頻度)が高いパスの作成 連携パス・プロセスパスの新規作成	杉 消化器科部長	沖田師長	高木副師長	橋 栄養管理室長
			高田副師長	橋本臨床検査技師長
新規機能の紹介 (レベルアップ・バージョンアップ) 新規機能の要望・具体的方法の提案	河北血液内科医長		西山副師長	
バリエーション・評価 適正使用 疾患・病態・治療に適した使用がされているか ・適応基準、除外基準の設定 ・DPC、DWHのデータ活用による評価 全体のマネジメント 改訂の提案・依頼	清川結核診療部長	田中地域連携係長	松前副師長	山本放射線技師長
	水元外科医長	森山師長	蒲川副師長	坂本理学療法士長
改訂 長期に改訂がされていないパスの把握 改訂の推進 (診療科別・全体) 改訂ルール作成 (使用頻度、バリエーションなどの視点から)	橋本整形外科部長	清田師長	岩井副師長	金内経営企画係長
	瀬下泌尿器科医長		牧野副師長	(平木副薬剤科長)
EBMからの評価 EBMに基づいているか評価する パスデータの管理 ・パス統計 ・データ処理のしきりを作る	豊永教育研修科長	田中師長	宮本副師長	平木副薬剤科長
	橋本糖尿・内分泌部長		西野副師長	
マスター管理 マスターの追加 明らかにおかしいものを抽出、修正	前田整形外科医長	佐藤師長	松永副師長	田代主任臨床工学士
	吉里脳神経外科医長	有馬師長	吉田副師長	上田副師長



毎週水曜日に行なわれるクリティカルパス検討会の様子

# 2014 診療科紹介 (69) 循環器内科



**部長**  
**藤本 和輝** (ふじもと かずてる)  
循環器一般、血管新生療法、  
心血管インターベンション

日本内科学会指導医・認定医、日本内科学会総合内科総合内科専門医、日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会認定医、日本心血管インターベンション治療学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会指導医、インフェクションコントロールドクター、熊本大学臨床教授



**医長**  
**宮尾 雄治** (みやお ゆうじ)  
循環器一般、心血管インターベンション

日本内科学会指導医・認定医、日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会認定医



**医長**  
**古賀 英信** (こが ひでのぶ)  
循環器一般、心血管インターベンション

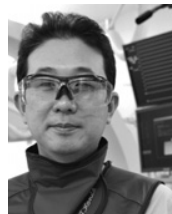
日本内科学会認定医、日本循環器学会専門医、ICD/CRT研修証、日本心血管インターベンション治療学会専門医

## 診療内容と特色

当院では救急医療に特に力を入れています。急性心筋梗塞、急性心不全、ショック、心肺停止などの重症例に対しても、24時間365日対応できる体制にあります。また、平成12年2月からモービルCCUが24時間運行可能となり、平成18年10月から大型の新規車両が追加されました。更に、新病院ではCCU（4床）が新設され、医師が24時間常駐し、重症の患者を迅速に対応できるようになりました。心臓血管センターは、「断らない医療」をモットーに、救急医療、病診連携に積極的に取り組んでいます。また、循環器科と心臓血管外科は、心臓血管センターとして共同で診療しています。手術の検討は両者で行い、緊急手術にも迅速に対応しています。

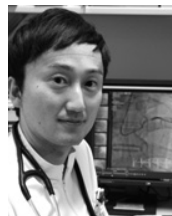
更に、従来の循環器科の治療の他に血管新生療法にも取り組み、現在までに45例施行し、良好な結果です。平成18年8月に高度先進国医療の承認を受けています。

日本循環器学会研修施設、日本心血管インターベンション治療学会研修施設



**医長**  
**本多 剛** (ほんだ つよし)  
循環器一般、心血管インターベンション

日本内科学会認定医、日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション治療学科認定医



**医師**  
**石井 正将** (いしい まさのぶ)  
循環器一般

日本内科学会認定医

## 診療実績

[平成24年度]	
入院患者数	863名
平均在院日数	11.8日
経皮的冠動脈形成術	249例
経皮的血管形成術	18例
ペースメーカー植え込み術	74例
埋め込み型除細動器植え込み術	7例
両室ペースメーカー植え込み術	1例
埋め込み型除細動器付き両室ペースメーカー植え込み術	1例
急性心筋梗塞	124例
血管新生療法	5例

## 研修実績

- 1) 急性心筋梗塞に対する病院前救護や遠隔医療等を含めた超急性期診療体制の構築に関する研究（厚生労働科学研究費補助金）
- 2) トロポニン陽性ACSにおける治療の現状とその効果の実態調査（厚生労働科学研究費補助金）
- 3) 冠動脈疾患を合併した脂質異常症における血清LDL-コレステロール値管理目標値設定の検討（国立病院機構多施設共同研究）
- 4) 2型糖尿病を併せ持つ高血圧患者におけるメトホルミンの心肥大・心機能に対する効果の検討（国立病院機構EBM研究）
- 5) 観血的医療処置時の抗血栓薬の適切な管理に関する研究（国立病院機構EBM研究）
- 6) 心血管イベントを規定するバイオマーカー開発ー血管新生関連因子と新規酸化LDLー（国立病院機構多施設共同研究）
- 7) 実地臨床におけるバイオリムス溶出性ステントとエベロリムス溶出性ステントの有効性および安全性についての多施設前向き無作為化オープンラベル比較試験
- 8) リアルワールドの日本人患者におけるEndeavor ZESを用いる治療後のDAPTの至適実施期間の検討：前向き多施設共同試験
- 9) 冠動脈疾患患者に対するピタバスタチンによる積極的脂質低下療法または通常脂質低下療法のランダム化比較試験



# 熊病の歴史

## 放射線科

昭和22年4月16日に熊本大学医学部放射線医学講座が文部省に認可され、亀田魁輔先生が放射線医学講座の主任教授として就任しました。当院放射線科は熊本大学に2年遅れること昭和24年9月30日の初代医長就任時より現在の平成25年までに64年の歴史があります。昭和20年12月に陸軍病院から国立病院となり、昭和24年9月30日より昭和47年1月15日まで放射線科医長を吉松眞也先生（昭和22年－24年属託）、昭和47年3月1日から昭和52年4月1日まで熊本大学放射線科助教授であった中嶋典嗣先生、昭和53年3月1日から土亀直俊先生（熊本県総合保健センター所長）、昭和54年3月1日から藤村憲治先生（屋久町栗生診療所）、昭和62年2月1日から新里仁哲先生（那覇市大浜第一病院）、昭和63年1月1日から山下康行先生（熊本大学放射線医学教室教授）、平成1年7月16日から高田千年先生（高田千年クリニック）、平成7年1月1日から古閑幸則先生（熊本再春荘病院）が勤務されました。

戦後、陸軍省と海軍省が厚生省となり、陸軍病院から国立病院に移管された放射線診断用撮影装置は定置型3台と携帯型1台で、治療装置の導入時期は不明です。昭和50年には、診断部門に一般撮影用X線装置2台、婦人科泌尿器科用撮影装置1台、血管造影撮影装置（X線TVと連続撮影装置）1台、断層撮影装置2台、消化管専用撮影装置（X線TV）2台、治療部門にコバルト60回転照射装置（昭和49年更新）と小線源治療装置RALS（ラルストロン）があり、当時としては充実した設備でした。さらに当時の中嶋先生は、本邦に導入されたばかりのCT装置、超高圧放射線治療装置（リニアック）とシミュレータ、核医学（RI）装置の導入とRI病棟の増設、国立大学病院で診療の中央化として発足した中央放射線部門（放射線診断部門、治療部門、核医学部門）の設立を考えられていました。その後、RALSは平成21年の新病院開院時まで35年以上稼働しつづけ、中央放射線部の設立は実現をみておりません。

昭和53年、土亀先生は放射線治療の診察30-40人/日、消化器外来の内視鏡検査とX線検査を担当、卒後5年目で消化管診断のリーダーシップを取り、またRI棟の建設ならびに核医学部門の立ち上げに携わられました。前任の偉い医長の後、最初の3ヶ月で体重5kg減という土亀先生の苦労談が事細かく書かれた思い出の手記があります。昭和54年赴任の、土亀先生の2年

先輩に当たる藤村先生の豪傑談を、当時国立病院に勤務の先生方や放射線科医局の先生方からお聞きしました。昭和61年に藤村先生の招聘にて、肝腫瘍の経皮エタノール注入療法（PEIT）を旧病院にて当時東京の三井記念病院に勤務していた私が行いました。縁あって平成16年7月1日に吉松俊治が当院医長を拝命し現在に至っております。

昭和63年、放射線科スタッフは放射線科医2名（病院医師42名）、放射線技師10名、看護師2名、受付3名で、診断業務は一般撮影と造影検査、血管造影ならびにTAE主体のIVR症例、RI検査とRIA（体外核医学検査）、CT検査（年間3000人ほど）でした。放射線治療はリニアック、ベータトロン、コバルト、RALSが稼働し、RALSによる子宮頸癌の腔内照射が多いことや骨髄移植前の全身照射を行っていることが当時から当院の特徴でした。長年、国立病院といえ年代物の放射線機器といわれてきましたが、平成3年にガンマカメラ（SPECT装置）と平成4年にヘリカルCT（日立W2000）が更新され、そののちに0.5テスラMRI装置の新規導入と血管造影装置（DSA）の更新が行われました。

平成11年に放射線技師11名、看護師5名となり、平成12年に放射線技師13名、放射線科医4名体制となっています。平成15年1.5テスラMRI装置（フィリップス社製）の導入とガンマカメラ（ECAM）の更新が行われました。平成16年4月の独立行政法人化とともに10列マルチスライスCTの更新が行われ年間CT検査件数は14000人となりました。また、放射線技師は14名体制になりましたが、日勤・夜勤の完全2交代勤務となり平日日勤の技師は10名体制で24台の装置を稼働しなければならず、若手技師の教育は直接放射線科医が行うという状況でした。看護師は外来所属の2名（非常勤）のみでした。平成17年1月より画像の電子保存（PSP社製PACS）を開始し、平成18年2月オーダーリングシステムと10月に電子カルテシステム（富士通EGMAIN-EX）の導入を行い、平成19年2月の完全フィルムレス化にて日常業務の省力化と医療安全の強化が進みました。同年2月に1.5テスラMRI装置（シーメンス社製）を新規導入し1.5テスラMRI装置2台体制となり、同年10月にX線平面検出器搭載の血管造影装置（フィリップス社製）に更新できました。

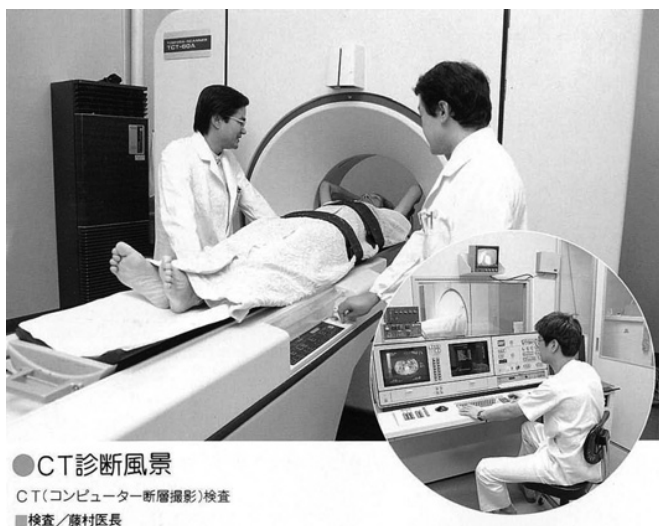
平成21年9月の新病院開院時に新たに放射線治療科

が標榜され、1階の放射線治療センターに外照射用リニアック（シーメンス社製Oncor）と腔内照射用RALSがマイクロセレクトロン（Neucletron社製）に新規更新されました。1階の核医学検査室には旧病院からSPECT装置が移設されました。4階の画像診断センターには128列と64列のマルチスライスCT（シーメンス社製）が新規更新され、CT2台フル稼働にて年間23,700人と5年間で10,000人近い検査件数の増加となりました。業務量の急速な増加に伴い、平成22年より放射線科医6名（うち後期研修医2名）、放射線技師20名、看護師6名、受付クラーク2名の体制となり、平成24年には放射線科医7名（うち後期研修医1名）、放射線技師22名、看護師7名となりました。平成24年10月の電子カルテ（EGMAIN-GX）の更新時に、院内全ての超音波画像と内視鏡画像のPACS電子保存と心血管撮影の動画サーバ保存を行い、ヘルスケアPKIによる医療文書の電子保存（e-文書）を行いました。

X線やガンマ線が発見され医学に応用されるようになって100年以上が過ぎました。最近10年のコンピュータ技術の革新により、画像診断と放射線治療は飛躍的に進歩しました。近年、本邦では過剰検査と医療被ばくが話題となってきましたが、現在ではCTやMRIの画像診断なくして救急病院の日常診療は成り立たちません。また高精度放射線治療による新たな癌治療が行われるようになりました。平成26年1月に3テスラMRI装置（フィリップス社製Ingenia3.0T）が稼働し、3月に前立腺の小線源治療装置（Nucletron社製OncentraSeeds）が稼働予定です。画像診断装置や治療装置の急速な進歩に遅れることなく、放射線科スタッフの能力の向上と指導者の育成が望まれます。

この10年の病院の電子化と設備投資を中心に記載致しました。原稿執筆にあたり熊本県総合保健センター所長の土亀直俊先生にご指導いただきました。この場を借りて深謝致します。

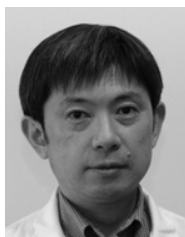
【放射線科部長 吉松 俊治】



●CT診断風景  
CT(コンピューター断層撮影)検査  
■検査/藤村医長

CT診断風景  
CT(コンピューター断層撮影)検査  
検査：藤村医長  
昭和60年

## 新任職員紹介



総合診療科医師  
よしみ しょういちろう  
吉見 昭一郎

初代専従医師として2月から勤務を開始。病院総合医（ホスピタリスト）活動の場を拓くため、公募に応じた着任です。初診外来を手掛かりに、専門医や開業医との相互補完、関連職種や施設などの連携、高齢

者救急の入口/出口問題に取り組みます。

30年後の人口構造と皆保険制度の命運を見据えつつ、非癌の看取りを含めた拠点病院における老年医療の在り方を提示してみたいと考えています。

変容、越境、包括できる専門医。それが総合医です。

<略歴>1965年生。久留米大卒。97年医籍登録。川崎医大病院にて初期研修。総合診療部および小児科に在籍。01年以降フリーランスとなり、各地で時間外診療と離島僻地医療支援に従事。プライマリーケア専攻。非専門医。鹿児島県出身。



# 国際医療協力「JICA研修」安全な輸血医療

今回のJICA研修、第3回「安全な輸血医療」に参加するため、ラテンアメリカの5ヶ国から10名の厚生省、保健省、赤十字社、国立研究所責任者が、平成26(2014)年1月6日に来日しました(図1)。

研修員の皆さんは1月10日から2月6日まで、熊本医療センターの教育研修棟(図2)に滞在し、そこでの講義や討論会に加え、そこから東京(国立感染症研究所、東京大学医学部附属病院など)、長崎(長崎大学医学部附属病院など)、久留米(日本赤十字社九州ブロック血液センター)、そして熊本の熊本大学医学部附属病院、化血研、熊本県血液センターへと出向いて、日本における最先端の輸血・献血システムを学びました(図3)。



図3 九州で1、2位を争うほどの安全な輸血製剤供給量を誇る熊本医療センターの輸血管理室



図2 25年もの間、国際医療協力関係者が宿泊・自炊し、共に学んだ教育研修棟も取り壊され、新たな施設として蘇る予定



図5 日本の文化を愛したラテンアメリカの輸血医療関係者



図1 熊本医療センター訪問  
初日の研修員と



図4 輸血関係のJICA研修  
最後の閉講式

皆さんは御存知でしょうか。ついこの前(1970年代)までは、日本でも東京大学附属病院など各施設で採血した血液を使って輸血していたことを。そしてその頃米国に留学した人々が目の当たりにした最新のシステムを日本に導入して今のような高度な輸血・献血体制が実現したことを(現九州ブロック血液センター長の清川博之先生より)。

残念なことに今回の研修で輸血関係の国際医療協力は一旦幕を閉じます(図4)が、この研修で学んだこと、目にしたこと、そして日本の良さ(図5)を自国に広め、世界全体で「安全な輸血医療」が実現することを祈ってやみません。

(国際医療協力室 武本 重毅)

## 「救急放射線ERセミナー」を開催しました

平成26年2月3日～7日の5日間、本院の研修センター、画像診断センター、救命救急センターにおいて独立行政法人国立病院機構九州ブロック事務所主催による平成25年度診療放射線技師特定技能派遣研修会「救急放射線ERセミナー」を開催しました。受講者は、国立病院機構に勤務する九州管内の診療放射線技師5名です。

このセミナーは、救急放射線に関する基本的な講義と放射線機器およびPACSを利用した臨床技能研修(読影補助研修、救急検査技術研修、救急医療体験研修)、ならびに実技演習を行い、救急医療に携わる診療放射線技師の育成と資質向上を図ることを目的としています。本年度で2回目の開催となりますが、昨年度より講義内容を増やし、より充実した内容としました。



CT読影実習



救急蘇生法実技演習



受講者と記念撮影

救急診療における迅速で安全な検査の実施や質の高い画像情報の提供、そしてチームワーク医療の重要性について知識・理解を深めることができたこと、受講者の充実感と達成感に満ちた表情が印象的でした。救急医療に携わるスタッフの一員として、今回の経験と知識を各施設で活かしてほしいと思います。

最後に、セミナーを開催するにあたり、副院長の高橋毅先生をはじめ多くの皆様の心温まるご支援、ご協力に深く感謝を申し上げます。

(主任診療放射線技師 今西 美嘉)

## 二の丸外傷トレーニング開催報告

平成26年2月2日に、第3回二の丸外傷トレーニングを開催しました。インフルエンザが猛威をふるう最中、指導者や受講生にもコース直前に罹患される者も出現し多少の混乱が生じましたが、コース中は大きな問題や混乱なく終わることができました。

一昨年からはじめた本コースも3回目となり、少しではありますが内容をバージョンアップしてのコース展開となりました。

午前中のスキルステーションでは胸部・骨盤レントゲン読影、FAST・GCS、胸腔ドレーン挿入やショックの講義に加え、外傷性全身CTについての座学を今コースでは新たにとりいれました。午後からの模擬診療では看護師にも参加して貰い、より実臨床に近い診療を行う試みを行いました。最初は理解力が不十分な（もちろん緊張もしているのですが）受講生たちが、コースが進むにつれて的確な診断と指示を確実に行うことができるようになっていくのを大変頼もしく思い



参加者と記念撮影

ました。

外傷診療は全ての職種の協力を必要とする、まさにチーム力が診療のカギとなります。本コースを行うことで当院のチーム力を整え、そして実臨床へと還元していきたいと思います。

来年度はインフルエンザ流行時期である2月開催はやめようと思います。

関係者の皆様、そして受講生の研修医の先生方、本当におつかれさまでした。

(外科医長 松本 克孝)



二の丸外傷トレーニングの様子

## 「救急看護エキスパートナース研修」開催報告

平成26年1月27日から31日の5日間、九州ブロック主催の平成25年度救急看護エキスパートナース研修が当院において開催され、九州各県から10名の研修生が参加されました。皆さん、学習に対するモチベーションが非常に高く、看護師として更に成長したい、施設に貢献したいという思いを抱えておられました。



実習風景

2日間の講義と演習の後、救急病棟と救急外来で実習を行い、当院スタッフと共に、患者観察、家族への対応、他種職との連携など多岐に渡る実践や意見交換を通し、多くの学びが得られたようでした。また、平成25年4月から熊本市の事業としてスタートした救急ワークステーションでは、救急隊員が、無線連絡を受けた後、速やかに医師と共に現場へ出動し、患者搬送を行う流れを見学することができ、プレホスピタルとの連携の必要性を実感されたようです。

各研修生が、今回の学びを活かし、各施設で伝達・実践することで、各施設の救急看護分野の質の向上に繋がっていくであろうことを確信した研修となりました。

(教育研修係長 有馬 京子)



いま、国立病院機構  
熊本医療センターで  
何が研究されているか

シリーズ82回

患者参画型クリティカルパスの改訂を目指した白血病患者の不安の実態調査

6南病棟看護師 清田 莉江、橋本 絵里華、森 愛美

当院は地域がん診療拠点病院として位置づけられ、年間多くの白血病患者を受け入れ化学療法を実施しています。これまで、化学療法を受ける患者に対し、2004年より患者参画型クリティカルパスを導入し、チーム医療の充実、患者の治療に対するセルフケアの向上を目標に使用してきました。しかし、不安の軽減を意図した改訂は行えていませんでした。そこで、パス改訂の指標とするために以下の研究に取り組みましたので、ご紹介します。

【目的】当院に白血病で化学療法を受けた患者の不安の特徴と内容を明らかにします。

【方法】白血病で入院している患者様に対し、不安の指標として、「自己存在」「病気の進行」「日常生活の再構成」「社会経済の見通し」の4つの因子で構成されている「化学療法を受けているがん患者の気がかり」評定尺度：CCRS」を使用しインタビューを行い、性別、年代との相関関係をみるために検定（t検定）を行いました。

【結果】回答者は10名で、60歳未満・60歳以上比1：1 男女比3：7であった。不安の特徴で総得点の平均値が高い順に、「病気の進行」29.67点、「社会・経済の見通し」26.33点、「日常生活の再構成」20.67点、「自己存在」17.50点でした（図1）。不安の特徴として「自己存在」と「病気の進行」の因子において性別で有意差があり、男性の方が不安の総得点が高かったです（図2）。年代での有意差はみられませんでした。

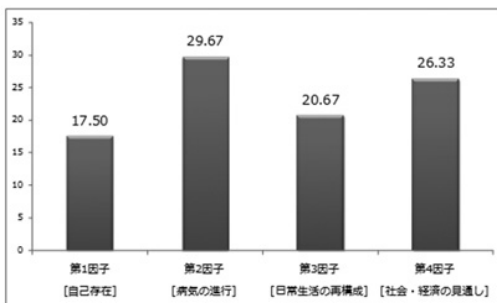


図1. 不安の特徴：因子の平均値比較

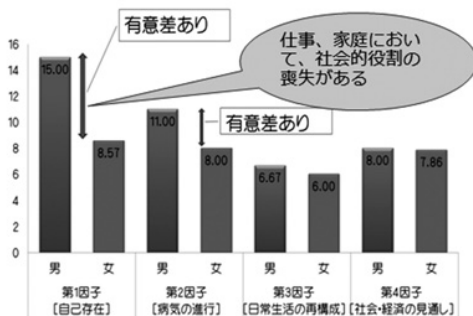


図2. 不安の特徴：男女比の比較

因子毎の不安の内容は表1に示すとおりです。第2因子の「病気の進行」の不安の内容では、「再発・転移への不安がある」が「かなり気になる、気になる」で90%でした。第4因子の「社会・経済の見通し」の不安の内容では「家族の行く末を案じる」と回答した患者が「かなり気になる、気になる」で70%でした。

【考察】「自己存在」と「病気の進行」で男性の方が有意に高かったのは、男性は外で仕事をしている事が多く、家族を支える役割を担っている為、社会的役割の喪失があり、不安が強いことが考えられます。不安の内容として「病気の進行」については「再発転移への不安」が90%と高値ですが「病気」「化学療法」に関してもいずれも60%以上で高いです。一番身近にいる看護師が病気の進行に関する患者の心理的衝撃、不安な気持ちを受け止め、必要時十分なICを行ってもらえるよう医師への調整が重要だと考えます。パスには治療経過や副作用が一目で分かるオーバービューの使用に加え、今後は副作用に何する対処方法も追加し、不安の緩和に努めたいです。また、不安の内容「社会経済の見通し」については、患者・家族の双方の思いを聞き、患者が家族に伝えられない現状がある場合は、看護師は患者家族の橋渡しの役割も担う必要があります。また経済面に関しては医療費が高額であることからクリティカルパスに、ソーシャルワーカーの介入を設け、早期から関わる必要があります。

【結論】今回、白血病患者の不安の特徴として病気の進行と社会・経済の見通しに対する不安が高値を占めました。今後、パス改訂を行うと共に、不安の内容を確認し、医師、ソーシャルワーカーと連絡調整を行いながら関わっていきたいです。

表1. 因子毎の不安の内容の気がかり評定結果

因子毎の不安内容	かなり気になる	気になる	殆ど気にならない	全く気にならない
<b>第1因子「自己存在」</b>				
社会から疎外された感じがする	20%	30%	20%	30%
自分らしさが保てない	10%	0%	30%	60%
人間関係が失われた気がする	0%	10%	20%	70%
家族の心配から生活が制限される	10%	0%	20%	70%
病状が心配で自分自身で生活を制限してしまう	10%	20%	30%	40%
何かにすがりたい	0%	20%	20%	60%
<b>第2因子「病気の進行」</b>				
常に病気のことを考えてしまう	20%	60%	20%	0%
再発転移への不安がある	60%	30%	0%	10%
化学療法による気力・体力の低下がある	20%	40%	30%	10%
<b>第3因子「日常生活の再構成」</b>				
自分の生活のリズムが作れない	20%	0%	30%	50%
自分自身で身の回りのことができない	0%	10%	50%	40%
仕事（家事・学業）が思うようにできない	30%	20%	30%	20%
<b>第4因子「社会経済の見通し」</b>				
化学療法を継続していく中で家族の行く末を案じる	30%	40%	10%	20%
化学療法を継続していく中で自分の役割を案じる	20%	30%	20%	30%
化学療法を継続していく中で経済面の行く末を案じる	10%	40%	20%	30%

## 研修医レポート

### 歯科研修医

にし の ゆ み こ  
西野 佑未子



こんにちは。歯科口腔外科研修医の西野佑未子です。4月にこの病院に来てから早いもので、もう1年経とうとしています。初めの頃は、右も左もわからずただ毎日をこなす事に必死でした。病院内で迷子になることも多々ありましたし、医長の中島先生はとにかく歩くスピードが早いため、小走りで追いかけては息切れしていました。あっという間の日々が過ぎていく中で、これではいけないと思い、私は毎月小さな目標を立てて過ごすことに決めました。4月は処置に必要な器具や配置を覚えること、5月は虫歯治療をすること、6月は残根抜歯が一人でできるようになること…

などと、もちろん現在でも完璧にはできませんが、この目標のおかげで忙しいながらも日々楽しく過ごせているような気がします。

当院の歯科口腔外科は、外科処置だけでなく一般的な歯科治療をする機会も多く、大変恵まれた環境で研修させていただいているのだなと嬉しく思います。中島先生をはじめとする先生方の診療は見ることにすべてが新鮮で大変勉強になります。そして治療を任せただけの機会が増えるたびに失敗や反省の日々です。また、全身疾患を持った方や、抗凝固薬等を服用中の方の外科処置なども数多く学ばせていただいています。診療以外にも、摂食嚥下のセミナーや医科の先生方の講演などを聴かせていただいたり、学会で発表する機会があったりと、とても貴重で有意義な経験をさせていただいていると感じます。

この1年間の経験は私のこれからの歯科医師人生の基盤となるような気がします。残りわずかな研修期間、1日1日大切に過ごしていきたいと思います。これからもご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

### 歯科研修医

はら だ かな  
原田 佳奈



こんにちは。歯科研修医の原田佳奈です。九州歯科大学を卒業し、地元である熊本へ戻って参りました。久しぶりの熊本での生活によりやく慣れてきたところですが、早いもので、研修期間も残すところわずかとなりました。

歯科口腔外科は、5人の先生方にご指導いただきながら診断や処置を学んでいます。抜歯などの外科処置から、齶歯治療や義歯作製などの一般治療、また嚥下評価まで幅広く経験させていただいております。外傷や炎症などの救急症例にも恵まれ、医科の先生方の講演を聴く機会も多く、とても貴重な経験をさせていただいております。歯科医師1年目からこのような充実した環境、医長の中島先生をはじめとする素晴らしい

先生方の下で学べることを有難く感じながら、日々努力している次第でございます。

4月より、一般歯科をはじめ、智歯抜歯、外傷、骨折、嚢胞、粘膜疾患、腫瘍など、様々な症例を経験することができました。また、他科と連携した医療も学ぶことができ、全身管理についても学ぶ機会が多かったです。糖尿病、血液・腎・肝・心疾患を持った方や、抗凝固薬や抗血栓薬を服用中の方、BP製剤使用前・中・後の方など、歯科治療を行うにあたり配慮が必要な方の治療も勉強させていただいております。

治療を行う機会をいただきながらも失敗の連続で、日々、自分の未熟さを痛感しておりますが、毎日たくさんのお話を学ぶことができ、充実した日々を送っています。課題が山積みではございますが、残りの研修期間を一日一日大事にしながら、できるだけ多くのことを吸収できるよう、積極的に研修に努めて参りたいと思っております。これからもご指導、ご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。



# 研修のご案内

## 第40回 症状・疾患別シリーズ（会員制）

〔日本医師会生涯教育講座2.5単位認定〕

日時▶平成26年3月8日(土)15:00~17:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：開医院 副院長/熊本県医師会理事

大柿 悟 先生

演題：「糖尿病診療の新しい話題」

### 1. 血糖測定機器の新しい話題

熊本大学医学部附属病院代謝・内分泌内科

信岡 謙太郎 先生

### 2. 経口血糖降下薬の新しい話題

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科医長

橋本 章子

### 3. 注射製剤と人工膵臓の新しい話題

国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長

豊永 哲至

この講座は有料で、年間10回を1シリーズ（年会費10,000円）として会費制で運営しています。但し、1回だけの参加を希望される場合は1回会費2,000円で参加いただけます。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局

TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通) FAX 096-352-5025 (直通)

## 第131回 救急症例検討会（無料）

日時▶平成26年3月12日(水)18:30~20:00

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

症例検討「循環器内科・心臓血管外科救急疾患」

国立病院機構熊本医療センター循環器内科部長

藤本 和輝

国立病院機構熊本医療センター心臓血管外科部長

岡本 実

医師、薬剤師、看護師、放射線技師、臨床検査技師、栄養士、救急隊員、事務部門等、全ての医療従事者を対象とした症例検討会です。医師以外の方にも理解できるように配慮した内容にしています。

事前参加のお申し込みは必要ありませんので、ご自由にお越しください。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター事務局 TEL 096-353-6501 (代表) 内線2630 096-353-3515 (直通)

## 第182回 月曜会（無料）

（内科症例検討会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

日時▶平成26年3月17日(月)19:00~20:30

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

### 1. 胸部レントゲン読影

### 2. 持ち込み症例の検討

### 3. 症例検討「甲状腺機能亢進症と肝障害」

国立病院機構熊本医療センター消化器内科

持永 崇恵

### 4. ミニレクチャー「ARB逆風時代のCKD」

国立病院機構熊本医療センター腎臓内科部長

富田 正郎

日頃、疑問の症例、興味のある症例、X線、心電図、その他がございましたら、ご持参いただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター統括診療部長 清川 哲志 TEL:096-353-6501 (代表) FAX:096-325-2519

## 第150回 三木会 特別講演（無料）

（糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会）

〔日本医師会生涯教育講座1.5単位認定〕

〔日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定〕

日時▶平成26年3月20日(木)19:00~20:45

場所▶国立病院機構熊本医療センター地域医療研修センター

座長：国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長

豊永 哲至

「骨・カルシウム代謝異常について」

国立病院機構熊本医療センター内科部長兼臨床検査部長

東 輝一朗

なお、興味のある症例、疑問・質問のある症例がございましたら、お持ちいただきますようお願い致します。

〔問合せ先〕国立病院機構熊本医療センター内科部長 東 輝一朗 TEL 096-353-6501 (代表) 内線5705

2014年

## 研修日程表

3月

国立病院機構熊本医療センター 地域医療研修センター

3月	研修センターホール	研 修 室
1日(土)		
2日(日)		
3日(月)		
4日(火)		
5日(水)	18:00~19:30 第85回 国立病院機構熊本医療センター クリティカルパス研究会(公開)	
6日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「クレーン対応」 国立病院機構熊本医療センター医事専門職 津山 廣志 18:30~20:00 日本臨床細胞学会熊本県支部研修会 〈細胞診月例会・症例検討会〉	
7日(金)		
8日(土)	15:00~17:30 第40回 症状・疾患別シリーズ 「糖尿病診療の新しい話題」 [日本医師会生涯教育講座2.5単位認定] 座長 開病院 副院長/熊本県医師会理事 大柿 悟 1. 血糖測定機器の新しい話題 熊本大学医学部附属病院代謝・内分泌内科 信岡謙太郎 2. 経口血糖降下薬の新しい話題 国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科医長 橋本 章子 3. 注射製剤と人工膵臓の新しい話題 国立病院機構熊本医療センター糖尿病・内分泌内科部長 豊永 哲至	
9日(日)		
10日(月)		
11日(火)		
12日(水)	18:30~20:00 第131回 救急症例検討会 「循環器内科・心臓血管外科救急疾患」	
13日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「院内暴力と対処法」 国立病院機構熊本医療センター院内警備統括担当者 陶山 守	18:30~20:00 熊本県臨床衛生検査技師会 一般検査研究班月例会(研2)
14日(金)		15:30~16:45 肝臓病教室(研2) 「自己免疫性肝疾患について」
15日(土)	14:00~16:00 第252回 滅菌消毒法講座	
16日(日)		
17日(月)	19:00~20:30 第182回 月曜会(内科症例検討会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定]	
18日(火)		
19日(水)	14:00~15:00 第12回 市民公開講座 「がんに対する放射線療法の進歩」 国立病院機構熊本医療センター放射線科医長 富高 悦司	13:00~17:00 糖尿病教室(研2)
20日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「防災の心構え」 国立病院機構熊本医療センター救急医療支援担当者 後藤 達広 19:00~20:45 第150回 三木会 (糖尿病、脂質異常症、高血圧を語る会) [日本医師会生涯教育講座1.5単位認定] [日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修単位<2群>0.5単位認定]	
21日(金)		
22日(土)		
23日(日)		
24日(月)		
25日(火)		19:00~21:00 小児科火曜会(研1)
26日(水)	19:00~20:30 第35回 熊本がんフォーラム 「原発不明癌」 国立病院機構熊本医療センター血液内科医長 榮 達智	
27日(木)	7:30~8:15 二の丸モーニングセミナー 「抗がん剤治療の注意点」 国立病院機構熊本医療センター産婦人科医長 永井 隆司	
28日(金)		
29日(土)		
30日(日)		
31日(月)		

研1~3 2階研修室1~3

※二の丸モーニングセミナーにつきまして、詳細はホームページ(<http://www.nho-kumamoto.jp/>)をご参照ください。

問い合わせ先 〒860-0008 熊本市中央区二の丸1番5号 国立病院機構熊本医療センター2階 地域医療研修センター TEL 096-353-6501(代) 内線2630 096-353-3515(直通)